令和元年（2019 年）度　国際機関等への拠出金等に対する評価シート

総合評価

B

■ 拠出金の概要

1　拠出金名	アセアン留学生交流等拠出金
2　拠出先国際機関名	アスジャ・インターナショナル
3　拠出形態	☑ ノンイヤマーク　☐ イヤマーク
4　拠出規模 （令和元年度当初予算額）	51,849 千円 日本の拠出率　100%（平成 31 年度）　拠出額の順位　1位（日本のみ） ☑ 本拠出金のみ　☐ 他の拠出金も含む
5　国際機関等の概要	（1）設立年・経緯，加盟国等の数，本部所在地，目的・マンデート
	2000 年4月，東南アジア諸国連合（ASEAN）元日本留学生評議会（ASCOJA:ASEAN 諸国の元日本留学生会の連合体）の日本側カウンターパートとして設立された（事務所は東京）。日本と ASEAN 諸国間の友好協力関係の中核的担い手となる親日派・知日派の育成を目的とする。2019 年5月現在，ASEAN10 か国と日本の関係組織等が参加。
	（2）主要な活動分野
	☐ 安全保障　☐ 軍縮不拡散・科学　☐ 国際経済・資源エネルギー ☐ 司法　☑ 教育・文化　☐ 開発・人道 ☐ 保健　☐ 環境・気候変動　☐ 地域協力 ☐ その他（　　）
6　拠出の使途及び目的	
本件拠出は，ASCOJA から推薦された国費留学生を対象とする交流事業及び ASEAN 各国におけるシンポジウムの実施に充てられる。これにより，ASEAN 地域における親日派・知日派の一層の増加を図り，ひいては日本と ASEAN 諸国の更なる関係強化を図る。	
7　担当課室	
外務報道官・広報文化組織　人物交流室	

評価基準1　国際機関等の活動の成果・影響力

1-1　当該機関の戦略目標，基本的な目標・計画・重点分野，関連する国際課題（SDGs の関連ゴール・ターゲット，国際基準・規範の形成等）等
アスジャ・インターナショナル（アスジャ）は，日本と ASEAN 諸国の架け橋となる親日派・知日派を多数育成することを目標とする。また，元日本留学生会としては世界最大の団体である東南アジア諸国連合（ASEAN）元日本留学生評議会（ASCOJA）と密接に協力し，ASEAN 地域の人材育成，日本との交流強化，元日本留学生のフォローアップ，元日本留学生間のネットワークの強化を行っている。
1-2　1-1 に基づく取組・活動（他の国際機関との連携等を含む。）
毎年度の事業計画に基づき，日本国内においては，ASCOJA から推薦された国費留学生を対象に，日本人学生との討論会，地方都市でのホームステイ等の交流事業，日本語作文の添削等を実施。国外においては，毎年3～4回，ASEAN 諸国において日本をテーマとするシンポジウムを開催するとともに，ASCOJA の年次総会に出席している。また，オンライン・プラットフォームを構築し，アスジャ及び ASCOJA 関連情報の一元化を進めている。

1-3　1-2 の進捗・実績及びそれによって得られた成果
2000 年の設立以降，アスジャのプログラムを終了した留学生は 155 名。2014 年から対象留学生数を拡大した結果，現在年間約 80 名の留学生がアスジャのプログラムに参加。2018 年度は 18 名がアスジャのプログラムを終了し，その内 16 名が日本関連企業に就職又は日本での研究続行を選択した。 アスジャは，留学生の日本語学習支援にも注力しており，現在の留学生の中には外国人による日本語弁論大会における上位入賞者もいる。 アスジャは ASCOJA と協力し，2018 年9月にグローバル化の時代における人材開発のための言語能力と文化能力（於：タイ），同年 10 月に日 ASEAN の世界遺産に対する保全協力（於：カンボジア），同年 12 月にグローバル化時代における老舗（於：インドネシア）に関するシンポジウムをそれぞれ開催。上記シンポジウムには ASEAN 全ての国から元日本留学生が参加したことに加え，開催国からも政府関係者，大学関係者等を中心にそれぞれ 150～300 名が出席。元日本留学生が日本とのつながりを再認識し，ネットワークを更に強化するとともに，元日本留学生以外にも日本をより深く理解してもらい，知日派を増やす上で有意義なものとなった。ASCOJA はアスジャがこのような協力を継続して行っていることを高く評価している。
1-4　（イヤマーク拠出のみ）イヤマーク拠出による取組・活動の進捗・実績及び得られた成果

評価基準2　日本の外交政策上の有用性・重要性

2-1　関連する日本の重要政策，外交戦略・重点分野等
①　関連する日本の重要政策（施政方針演説，外交演説，各種基本計画等のうち主なもの）
第 198 回国会の外交演説（平成 31 年1月 28 日） ・加えて，自由，民主主義，基本的人権，法の支配，国際法の尊重など共通の価値観を持つ国々との連携を強めていきます。インド，豪州，EU や欧州主要国等の戦略的利益を共有する各国との枠組みや，ASEAN を含めたアジア太平洋の地域協力等，同盟国・友好国のネットワーク化を推進します。 ・日本を理解し，支持・応援してくれる親日派・知日派を発掘し，育てていくことも極めて重要です。
②　日本外交の関連重点分野
近隣諸国等との関係強化（ASEAN）
2-2 日本の外交政策を遂行する上での当該拠出の有用性・重要性及び日本の重要外交課題の遂行への貢献
・ASCOJA には ASEAN 各国の政財官界の重鎮が所属しており，会員総数は3万5千人を超える。アスジャを通じた ASCOJA 支援は外交資産である元日本留学生のネットワークの維持・活性化に貢献。シンポジウム開催を通じて，元日本留学生が日本とのつながりを再認識し，ネットワークを更に強化するとともに，元日本留学生以外にも日本をより深く理解してもらい，知日派を増やす機会を提供しており有意義。 ・日本外交の重要課題である日・ASEAN 関係の強化のなかでも，青少年を中心とした人的・文化的交流が重視されており，2018 年 11 月の日・ASEAN 首脳会議議長声明において ASCOJA を通じた人的交流が評価されている。
2-3 当該機関の意思決定プロセスにおける日本の意向を反映できる地位の確保
アスジャの意思決定機関である国際理事会に際しては，審議事項につきアスジャ事務局から日本政府に事前に確認が求められており，日本政府の意向を確実に反映させてきている。また，上記国際理事会に出席する日本理事は，日本政府が指名することとなっており，同理事を通じて日本の発言力・影響力を確保している。加えて，外務省員もオブザーバーとして国際理事会に参加しており，必要に応じて日本政府の意向を表明する地位を確保している。
2-4 当該機関との間での要人往来，政策対話等
・2018 年 10 月にシェムリアップ（カンボジア）で開催された第 24 回 ASCOJA 総会（アスジャが開催を支援）には，田中和徳衆議院議員（自由民主党）が出席し，来賓代表として挨拶をした。 ・2019 年3月に東京にて開催された国際理事会の機会には，アスジャ理事を始めとする関係者約 30 名が衆議院議長公邸を訪問し，大島理森衆議院議長を表敬するとともに，新たに発足した ASCOJA・アスジャ議員連盟（会長：鈴木俊一衆議院議員）関係者と懇談し，今後の ASCOJA・アスジャの協力につき意見を交わした。
2-5 日本企業，日本のNGO・NPO，地方自治体，大学等との関わり

アスジャは，公益財団法人東芝国際交流財団と共催で，ASCOJA が推薦する高校生と日本の高校生の交流事業を実施。また，独立行政法人国立青少年教育振興協会が実施する ASCOJA 推薦中学生の招へい交流事業の企画・実施運営においても側面支援を行っている。2019 年3月に，同財団と Toshiba Youth Club Asia Vol.5 を共催。同行事にはフィリピン，タイ，ミャンマー，カンボジア，ベトナム及びラオスから高校生2名とアドバイザー1名ずつが参加。日本の高校生6名とアドバイザー3名と8日間のプログラムを通じて相互理解を深めるとともに，持続可能な社会を創るためのアジアの長期ビジョンを共同で構想する機会を提供することで，次世代を担う人材のネットワーク構築に貢献している。

国立青少年教育振興協会が 2018 年 11 月に実施した平成 30 年度アセアン中学生交流事業においても，アスジャは事業の企画段階から実施に大きく関与。同事業にはラオス，ミャンマー，シンガポール，タイ，ベトナムから 35 名の中学生及び引率者が来日し，9日間のプログラムに参加。日本の中学生との国際交流の機会を設けるなど，グローバル感覚を備えた青少年育成にアスジャは大きく貢献した。

これら他団体と共同で行う高校生・中学生対象事業はアスジャが実施する大学生・大学院生レベルの交流事業と相乗効果を発揮し，ASEAN 地域における青少年育成に貢献している。

評価基準3　組織・財政マネジメント

3-1　会計年度	4月から3月		
3-2　機関全体の財政状況			
報告年月	2019 年5月受領（2018 年度分）	通貨	円
予算額	74,341,118	決算額	60,563,887
予算額・決算額の差	13,777,231	予算額に占めるその差の割合	19%
65％以上の場合，その理由	―		
3-3　本拠出の会計報告（イヤマーク拠出分のみ）			
報告年月		通貨	
報告がない場合，その理由			
予算額		決算額	
予算額・決算額の差		予算額に占めるその差の割合	
65%以上の場合，その理由			
3-4　監査			
（1）外部監査			
対象年度	2017 年度	報告年月	2018 年6月受領
実施主体	アイオーシー監査法人		
財政状況に係る報告が正確かつ適正に作成されていることの確認（「無」の場合にはその概要及び対応ぶり）			有
組織・財政マネジメントに係る指摘（監査報告に含まれている場合）（「有」の場合，3-5 に指摘内容を記入）			無
（2）内部監査			
対象年度	―	報告年月	―
実施主体	―		

対象事項	―

3-5　組織・財政マネジメント（人事・予算・調達等）に係る問題の概要・対応ぶり，更なる改善への取組・成果

【不正関連】
　無し
【人事関連】
　2000 年の発足以来同人物が事務総長を務めているため，早期に後任を選定することが課題。後任選定に向け，外務省とアスジャの間で協議を続けている。
【予算関連】
　非常勤職員等の活用により，全体支出における人件費の割合を 30%以下に維持している。
【調達関連】
　航空券等の購入に際しては相見積もりの取得等を通じコスト削減に努めている。

評価基準4　日本人職員・ポストの状況等

4-1　日本人職員数 （原則，各年 12 月末時点，専門職以上。）

全職員数	日本人職員数		日本人職員の比率（%）	過去3年の日本人職員数				増減数
2018	2018	内，幹部		2017	2016	2015	平均値	
3	3	1	100	3	3	3	3	0

□	専門職から幹部職，幹部職内の昇進有り	0 名	備考	―

4-2　当該機関の長等の重要ポストを務めている日本人職員の有無

有 （佐藤次郎　事務総長）

4-3　日本人職員の採用・昇進に係る具体的な協力の実績

―

4-4　その他特記事項

―